「ペトロの離反予告と彼の否認」　2023年11月22日

「シモン、シモン、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願い出た。しかし、私は信仰がなくならないように、あなたのために祈った。だから、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」シモンは言った。「主よ、ご一緒になら、牢であろうと死であろうと覚悟しております。」イエスは言われた。「ペトロ、言っておくが、今日、鶏が鳴くまでに、あなたは三度、私を知らないと言うだろう。」（ルカ22：31～34）

だが、ペトロは、「あなたの言うことは分からない」と言った。まだ言い終えないうちに、たちまち、鶏が鳴いた。主は振り向いてペトロを見つめられた。ペトロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度、私を知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。（ルカ22：60～62）

主イエスはシモン・ペトロの裏切り、挫折を予告された。あなたがたはサタンのふるいにかけられ、落ちていく。私を裏切り、去って行く。しかし、信仰がなくならないようにあなたのために祈ったので、立ち直った時には、兄弟たちを支え、力づけなさい、と。ペトロは自分の主イエスへの篤い信従の思いを理解されていないことに、仰天して、不満を込めて「主よ、ご一緒になら、牢であろうと死であろうと覚悟しております」と答えた。この返答は本心で、偽りはなかった。主イエスは、「ペトロ、言っておくが、今日、鶏が鳴くまでに、あなたは三度、私を知らないと言うだろう」と、突き放すように予告された。

主イエスがオリーブ山で、汗が血の滴るように地面に落ちるほど、苦悩の祈りを献げられた。その後、弟子たちが眠り込んでいる姿を見て、「誘惑に陥らぬよう、起きて祈っていなさい」と忠告しているところに、エルサレム神殿の衛兵が主イエスの捕縛に来た。多少のいざこざがあり、縄をかけられ、捕まえられた時、弟子たちは皆、逃げ去った。ペトロは先ほど、「主よ、ご一緒になら、牢であろうと死であろうと覚悟しております」と言った言葉を思い出し、逃げた自分の行動に驚愕しただろう。彼は気を取り直し、主イエスがどのように扱われるのかを案じ、主イエスが大祭司の家に連れていかれるのを見て、遠くから付いて行った。予定通りに事が運ぶのを見越し、大祭司の中庭には、焚火がたかれていた。ペトロは人々に交じって焚火の前で、成り行きを見つめて座っていた。すると、召し使いの女が、火明かりに照らされたペトロの顔を見て、「この人も一緒だった」と主イエスの仲間だと証言した。ペトロは「あんな人など知らない」と、主イエスとの関りを打ち消した。他の人がペトロを見て「お前もあの連中の仲間だ」と言った。彼は「いや、違う」と関係を否認した。1時間ほど経った頃、別の人が「確かに、この人も一緒だった。ガリラヤの者だから」と、ペトロのガリラヤの風采とガリラヤ訛りから、主イエスと一緒だったと名指しした。ペトロは「あなたの言うことが分からない」と言った。三度目の否認を言い終えないうちに、鶏が鳴いた。捕縛されていた主イエスは、振り向いてペトロを見つめられた。その目は裁く怒りの目ではなく、ペトロを憐れむ、頷きの目ではなかったか。一方のペトロは、「今日、鶏が鳴く前にあなたは三度、私を知らないと言うだろう」と言われた主イエスの言葉を思い出し、外に出て、激しく泣いた。彼はガリラヤ人気質を受け継ぎ、勇敢、律儀を自負していたが、無残に挫折したのである。彼の涙は自分を失うほどのものであったであろう。福音書は、弟子たちの無知と弱さを率直に書いている。